

越前市政報告

越前市長 奈良俊幸

本県で50年振りに開催される「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会（国体・障スポ）」については、9月2日にデモンストレーションスポーツとして武術太極拳が越前市南越中学校体育館で、9日にはシルバーソフトバレーボールが武生中央公園総合体育館で開催されるなど、9月29日の開幕に向け、市民の気運も盛り上がってきました。

本市では、国体の正式競技としてフェンシング・ソフトボール・ソフトテニス・軟式野球の4競技が、引き続き障スポの正式競技としてソフトボールが開催されます。

なお、フェンシング競技においては、本市出身の見延和靖選手が8月22日にアジア大会の男子エペ団体で金メダルを獲得したことから、市では同選手の健闘を讃え、「市民スポーツ文化大賞」を贈ることを決定しました。

「福井しあわせ元気国体・大会」に向けて再整備を行ってきた武生中央公園については、総合体育館の東側に、スポーツやレクリエーションのみならず、イベント会場や駐車場として幅広く利用可能な多目的グラウンドが8月24日に完成し、再整備事業が完了しました。

また、昨年11月の飲食施設の募集により出店が決定したスターバックスコーヒー武生中央公園店が、景観に配慮したスペシャルな店舗として9月21日にオープンし、公園利用者のさらなる増加と利便性向上に繋がるものと期待しています。

道路事業については、「福井しあわせ元気国体・大会」を前に、都市計画道路 河濯線が9月8日に開通しました。

河濯線は、都市計画道路 戸谷片屋線や主要地方道 武生美山線と中心市街地を結ぶ幹線道路で、約320mの交通不能区間が開通したことにより、4車線の戸谷片屋線から武生中央公園までが一直線に繋がり、公園利用者等の利便性が大いに向上しました。

また、吉野瀬川ダムの建設に伴う主要地方道 武生米ノ線の付替県道が完成し、8月11日に開通式が行われ、コウノトリが舞う本市西部地区と中心市街地が安全で円滑に結ばれました。

なお、吉野瀬川改修事業については、昨年11月12日に放水路の通水式と、一般県道 福井鯖江線・石田家久停車場線の開通式が行われるとともに、吉野瀬川ダム建設事業については、平成37年度の完成を目指し、本年度から県がダム本体工事の前段となる転流工の工事に着手します。

本庁舎の建設については、平成31年10月末の完成に向け、基礎工事を終え、現在、上屋の鉄骨工事を進めています。

庁舎前ひろばの利用方法や緊急発掘調査で出土した石垣・礎石等の活用方法については、庁舎前ひろば整備・利用検討会議を9月27日に設置し、平成28年9月に策定した本庁舎建設基本設計に沿い、学識経験者や市民の意見を伺いながら、来年夏頃に方針を取りまとめてまいります。

一方、東部地域の防災・コミュニティの拠点として昨年4月から整備を進めてきた複合施設については、愛称募集に全国から553件の応募があり、昨年11月に南越中学校の全校生徒による投票を実施し、「あいぱーく今立」に決定しました。

「あいぱーく今立」は、工事費が約7億7千万円で、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造の平屋建て、延べ床面積は約1,885㎡で、今立総合支所と越前市商工会が入居します。

災害発生時には現地対策本部を開設する会議室、講演会やイベントなどを行う250人収容の多目的ホール、料理教室や災害時の炊き出しに利用する調理室、ふれあい広場や子ども広場、コミュニティホールなどを備えており、9月24日に竣工式を行い、25日から供用を開始します。

北陸新幹線南越駅（仮称）の整備については、駅舎の基本デザイン案について市民から1,530件の意見をいただき、議会やデザイン選定会議での議論を踏まえ、「コウノトリが飛翔する未来への道標となる駅」を市の推薦案として、2月に鉄道・運輸機構に回答しました。

南越駅（仮称）周辺の土地利用については、本県発展の戦略的な拠点と位置付け、市都市計画マスタープランに基づく「広域高次都市機能」の誘導を図り、新幹線開業によるインパクトを生かしたまちづくりを効果的に進めるため、6月市議会の議決を経て、同駅周辺の48haを無秩序な開発を制限する「特定用途制限地域」に指定する条例を10月から施行します。

また、地元代表者や地権者等で構成する「まちづくり協議会」を年内に設置するとともに、同協議会の代表者や学識経験者等で構成する「まちづくり計画策定委員会」を年度内に設置し、南越駅（仮称）周辺の将来像となる「まちづくり計画」の策定を進めてまいります。

人口減少への対応については、平成27年11月に策定した市総合戦略に掲げる5つの基本目標を着実に推進するため、全庁を挙げて人口減少対策・定住化促進対策の取組みを推進した結果、住民基本台帳に基づく平成30年4月1日時点の本市の人口は8万3,122人で、平成29年4月1日時点の人口と比べて140人増加しました。

3月に県が公表した平成29年工業統計調査では、本市の平成28年製造品出荷額等は5,356億6,505万円で、県内に占める割合は26.3%となっています。

今後も市内企業の事業拡張と雇用の増大が見込めることから、企業と連携を深めながら住宅取得施策などの人口減少対策・定住化促進対策を推進してまいります。

多文化共生社会への取組みについては、8月1日の本市における外国人市民の数は4,099人で、総人口に占める割合は4.9%と、高い水準で推移しています。

人口減少時代を迎え、労働力不足が深刻化し、外国人市民の増加傾向が続くことから、日本人市民と外国人市民が互いに国籍や文化の違いを認め合い、安心して住みよいまちを築くため、本年度末に市多文化共生推進プランを策定する予定で、10月には外国人市民を対象としたミーティングの開催を計画しています。

伝統産業の振興については、平成27年3月に策定した市工芸の里

構想に基づき、産地の振興や産業観光による地域活性化に取り組んでおり、越前和紙では昨年10月に「越前鳥の子紙」が国の重要無形文化財に正式指定され、本年5月には「紙祖神 岡太神社・大瀧神社 千三百年大祭・御神忌」が盛大に行われました。

また、越前打刃物の後継者の育成と技術の保存継承、産地の歴史・工芸文化の発信を目的に整備した越前打刃物振興施設「刃物の里」が完成し、8月24日にオープニング式典を行いました。

越前箆笥については、タンス町通りの箆笥店の製造工程の見える化を支援するとともに、タンス町通り周辺の四町界限における寺社等の活用や、隣接する武生中央公園「だるまちゃん広場」と「ちひろの生まれた家」記念館との連携を深め、活性化を図っています。

本年12月のいわさきちひろ生誕百年の取組みについては、まちなかギャラリーの設置などにより機運の醸成を図っており、9月から12月にかけて「ちひろの生まれた家」記念館と武生公会堂記念館が連携して特別展などを開催するほか、12月15日には武生中央公園「はぐもぐ」でお誕生会を開催します。

また、12月20日には文化センター大ホールで、東京の劇団によるいわさきちひろ生誕百年の公演が予定されています。

コウノトリが舞う里づくりについては、県が白山地区で飼育している「ふっくん」と「さっちゃん」が4月に4個の卵を産み、県内では54年振りの有精卵と確認され、5月7日から次々にひなが誕生しました（うち1羽は、その後死亡）。

成鳥した3羽のコウノトリを県が坂口地区で9月17日に放鳥することから、市は同日に坂口地区のエコビレッジ交流センターで「2018コウノトリが舞う里づくり大作戦」を開催するなど、引き続きコウノトリの野外定着に向けた環境整備を推進してまいります。

また、4月末から王子保地区では、人工巣塔でコウノトリの雄と雌が巣作りを行い、産卵をしましたが、残念ながら孵化には至りませんでした。

白山・坂口地区では現在も、野外コウノトリの「みほとくん」と、平成27年に白山地区で放鳥された「ゆめちゃん」が滞在しており、

来年春の自然繁殖を大いに期待しています。

高齢者福祉については、「いきいきふれあいのつどい」の開催など住民同士の支え合いによる取組みを推進し、身近なところで介護予防ができる環境づくりを進めたところ、3年前まで県の平均を上回っていた本市の要介護認定率は年々低下し、昨年10月には県内17市町で一番低い数値となりました。

その結果、第7期市高齢者福祉保健計画・介護保険事業計画の計画期間（平成30～32年度）において、介護保険料を第6期と同額に据え置くことができました。

今後も地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組みを強化し、安心して暮らせる長寿社会の実現を目指してまいります。

健康づくりの推進については、健康寿命の延伸を目標とする市健康21計画（第3次）を昨年度末に策定し、その行動指針に「良いこといっぱい たばこ0（ゼロ）本 — あなたの禁煙、応援します」を新たに設定しました。

5月31日の世界禁煙デーには、北陸3県の自治体で初となる「たばこ対策宣言」を行うなど、禁煙や受動喫煙の防止等のたばこ対策を積極的に推進しており、健康寿命のさらなる延伸を図ってまいります。

男女共同参画の取組みについては、8月14日に県内で初めて、私が内閣府男女共同参画局の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」の「行動宣言」に賛同しました。

これを機に、市内の企業等と連携して、働き方改革と女性の活躍支援にさらに取り組み、市総合戦略に掲げる「女性が輝くモノづくりのまち～子育て・教育環境日本一～」の着実な推進を図っていくため、年内に「越前市輝く女性活躍応援団」を設立し、「行動宣言」を行ってまいります。

最後に、県内は2月4日から冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が上空に流れ込んだため、本市は平成23年1月以来となる7年振りの大雪に見舞われ、村国二丁目の観測点では2月6日午前9時に103

cm の積雪を記録しました。

そこで、同日に市雪害対策本部を設置し、市民生活の安全確保を図るため、全庁体制で市内全域の除雪作業などの取組みを行いました。

しかし、その後も雪は降り続き、2月13日午前11時には積雪が130cmに上り、平成元年の統計開始以降、観測史上1位を更新する中、災害救助法第2条の規定に基づく救助実施のため、2月13日に本市に同法の適用がなされました。

市では、市道の除排雪や公共施設の除雪、倒壊した園芸ハウスの再建支援等に11億1千万円余りの予算を支出し、国や県の支援などを差し引くと、例年より3億2千万円ほど多くの経費を要しました。

以上、当面する市政の重要課題について、取組みの一端をご紹介しました。

今後も「元気な自立都市 越前」の創造を目指して、市民と協働のまちづくりを推進してまいりますので、武生郷友会の会員の皆様には、ふるさと納税をはじめ市政に対する引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。